

こ ん な の み た こ と あ る ？

—教師用ガイドブック—

●はじめに

- ・この単元は、子どもたちが“調べてみたい”とわくわくする気持ちが高まる学習にすることが大切です。単に調べたことを発表したりWeb上で交流したりするのではなく、みんなに知ってほしくてたまらないことやこんなことを発見したから教えてあげたいということを出し合わせた上で、Webページや電子掲示板を使って交流したいものです。また、まとめるときはできるだけ子ども達の視点を大切にしてください。
- ・Step 1 やStep 3 では、野外の活動が主になります。教師側は、各グループのコースや計画を十分に把握し、無理や危険がないことを確認してください。また活動場所が分散しますので、学年でチームを組んだり、他の教師、保護者の応援を依頼したりすることも大切でしょう。
- ・Step 4 で、テレビ会議やコミュニケーションツール“I-Note”等を使って同期で学習する場合は、交流相手校と十分に打ち合わせをしておきましょう。

●各ステップにおける留意点

Step1 秋みつけ（秋の町探検）にでかけよう。

（2時間）

- グループごとに秋みつけ（秋の町探検）に出かける。（1時間）
 - ・事前に各グループの探検コースを把握し、無理や危険がないか把握しておくようにしておきましょう。また活動が分散するので、学年でチームを組んだり、他の教師、保護者の応援を依頼したりすることも大切でしょう。
 - ・みつけたものを記録するのに、各グループごとにデジタルカメラを用意しておく、便利です。
- グループごとに探検し集めた情報を、クラスで発表し、交流しあう。（1時間）
 - ・子ども達の資料をすぐ提示できるようO.H.P.や実物投影機等を用意しておく、学習が進めやすいです。
 - ・みつけたものをみんなに紹介するとき、○○の仲間、見つけた場所なども発表させていくと、これからの学習を進める上で役に立ちます。

Step2 自分達の町でみつけた生き物や植物は、交流相手校の周りにもいるかな？ 聞いてみよう。

（2時間）+ 課外

- 自分達の町でみつけたものの中で、どんなものを交流校の友達に教えてあげたいか話し合う。（1時間+ 課外）
 - ・単にみつけたものの名前や見つけた場所だけを紹介するのではなく、“気づいたことや思ったことなども紹介すると相手校の友達も探したくなるよ”等アドバイスを与えることも大切です。
 - ・もう一度、“秋探し”に出かけるのは、放課後の活動になります。その時は、子ども達だけで行かせるのではなく、教師も必ずついていくなど配慮が必要です。
- 交流相手校の友達に教えてあげたいこと、みつけてほしいものをまとめる。（1時間）
 - ・Webに載せるときに必要な写真や絵などは、教師が加工してフロッピーディスク等に保存しておいてやると、まとめやすいです。

Step3 交流相手校の周りでみつけた生き物や植物は、自分達の町の周りにもいるかな？ 探してみよう。3時間

- 交流相手校の友達がみつけたものと自分達の町でみつけたものとくらべる。（1時間）
 - ・ワークシートにすでに自分達がみつけてしまったものと、まだみつけていないものの欄を作っておくと、次の時間に調べに行くときに、無駄がないです。
- 交流相手校の周りでみつけた生き物や植物は自分達の町にもいるか探しに行く。（1時間）
 - ・自分達が探す生き物が、森や田んぼ、草原などどこにいるかわからない時は、情報検索エンジン“みつけ”を利用して、どこにいるか検討をつけてから探しに行くことも一つの方法です。また情報検索エンジン“みつけ”等を使う場合は、あらかじめ教師の手でリンク集を作っておきましょう。
- 探検し集めた情報をまとめ、交流相手校の友達とWebページや電子掲示板等を使って交流する。（1時間）
 - ・電子掲示板に書き込む文章は、ワークシート2等に下書きしてそれを写して書き込むようにすると、子どもも安心して書き込むことができるでしょう。またそうすることによって教師側も子どもの疑問や伝えたいこと等を把握することができます。

Step 4 自分達の周りでみつけた生き物や植物は交流相手校の友達にみつけられたかな？ みつけあいっこした結果をまとめてみよう。 2時間

- 交流相手校とWeb上でみつけあいっこした結果をまとめる。 (2時間)
 - ・ 交流する日時やどういうことを中心に交流しあうか、交流相手校と十分な打ち合わせをしておくことが大切です。